

## ベストクラス選定理由書

作成者：A 班（須田康之・筒井茂喜・北谷隆太郎・藤井圭吾・吉田晴彦・木下進次・沼田英佑）

科目名称	哲学概説		
	(担当教員名：森 秀樹)		
課 程	学部・大学院（修士・専門職）	開講時期	前期・後期
授業形態	講義	授業規模	22 人
インタビュー対象教員名	森 秀樹		
	(実施日時：平成 29 年 6 月 30 日 10 時 40 分～12 時； 実施場所：教育言語社会棟 506 室)		
インタビュー対象受講者名	小野太郎・春名大誠		
	(実施日時：平成 29 年 6 月 30 日 10 時 40 分～12 時； 実施場所：教育言語社会棟 506 室)		
選定理由	<p>本授業は、学部社会系 2 年次の専門科目で、哲学の主要テーマを取り上げ、哲学的思考についての理解を深めることを目的としている。すなわち、本授業の第一義的なねらいは、ルネサンス以降近代の自己と共同体の相克が、社会契約論、自由主義、合理論と経験論、実存主義のなかにどのようにみとれるのかを理解することにある。これを、模擬授業、ディスカッション、授業担当者による解説を通じて行うところに、本授業の特色がある。</p> <p>本授業の優れた点は、次の 3 点に集約できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 明確な授業目的とそれを達成するための計画的かつ周到な準備がなされている点。              模擬授業を行うにあたり、担当する 2 名の学生と森先生との間で、授業を構成する要素について検討する機会が設けられ、指導案の提出が求められる。担当学生は、自ら授業をつくることを通して思想家と主体的に向き合い、何が重要かを自らの頭で考える。教えるに足る価値ある内容であるかを十分に吟味したうえで模擬授業に臨むことになる。</li> <li>2. 抽象と具体の往還がなされている点。              この授業の特徴は、哲学の抽象概念を抽象概念のままで終わらせないことにある。必ず、具体的な舞台に落とし込んで、学生が身近な具体例を通して考えることができるように工夫がなされている。インタビューの中で、何を学生に獲得してほしいかを尋ねた。一つは、抽象と具体の往還の過程で、自分がどう考えたかという点と、その考えを成り立たせている諸要因との関係に考えを巡らせるようになってほしいという点を指摘された。このことは、個々の思想家のつながりと個人と共同体の関係を成り立たせる価値や思想の中にも位置づけることができるということであった。</li> <li>3. 授業を通じて学生の学習意欲が喚起されている点。              受講生 2 名に対して授業についての感想を聞いたところ、「この授業を受講して、あたり前のことを何でと考えるようになった、ものの見方や捉え方が変わった、物事を突き詰めて考えるようになった」という回答が返ってきた。授業担当の学生 2 人と森先生との間で詰めていく場面は、「ドキドキする場面であり、なかなかできない経験をすることができた場面」であったという。</li> </ol> <p>明確な授業目的と模擬授業を行うために授業者と学生との間でなされる周到な準備、抽象と具体の往還、受講生の学習意欲の喚起がなされていること、これら諸点を踏まえ、「哲学概説」が、平成 28 年度のベストクラスに値すると判断した。</p>		